

安保・戦争国会粉碎へ!

2015年3月17日
No.277

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

全国学生の3/11郡山集会感想③

◆沖縄大学学生自治会委員長・赤嶺知晃

3・11反原発福島行動は、1100人の参加で圧倒的にうち抜かれました! 不当逮捕された古郡陸さんが司会を務め、郡工で被曝労働に反対し外注化阻止を闘う橋本光一さんや、福島の闘う農民鈴木光一郎さん、そして仮設住宅の住民や福島第一原発で働く原発労働者が発言に立ち、福島の怒りを解き放つ集会になりました。

集会の準備を手伝うため、3月1日から福島現地に入って、学生実行委員会として福大・樋口君や古郡さんと闘い抜くことができたと嬉しかったです。

学生部隊として朝から晩まで、福大ビラまきや仮設住宅回り、郡山駅前での街宣、労組回りなど、福島を駆け巡り、3・11行動への参加を呼びかけました。私は2013年以降毎年福島に来ていますが、4年目の福島はどうなっているのかという思いはずっとありました。しかし、郡山駅でひとたびビラをまいてみると、原発再稼働と戦争の安倍への怒りが充満していることがすぐにわかります。

街頭で3・11行動を訴えていると、多くの人がビラを受け取り、集会賛同署名を書いてくれました。年配の方や若い人が署名に応じてくれ、あらゆる人が怒りを持っていることを実感しました。私がマイクで「沖縄大からきました」と言うと多くの方が反応してくれ、賛同署名をいただいた年配の男性は、沖縄から来たことを伝えると、「沖縄の辺野古基地建設阻止の闘いがあるから、福島も声をあげやすい。頑張ってくれ」と語ってくれました。沖縄の基地建設阻止の闘いが、福島圧殺の中で闘う福島の人々を勇気づけていると思うと、沖縄と福島が連帯して安倍打倒を闘うことの重要性を認識しました。

福島大にもすぐには乗り込み、3・11行動と古郡さん奪還を報告するビラをまきました。逮捕後ということもあり、分岐も生まれていましたが、意識的にビラを受け取る学生も多くいました。古郡さんの再登場に福大当局は明確に動揺しており、警備員が福大正面の金谷川駅前まで出てきてビラまきを監視しにくるほどです。

奪還後、古郡さんが多くの学生が注目を浴びながらキャンパスに堂々と入っていく様子は、エセ「リベラル」大学

＝福大の弾圧・過激派キャンペーンを完全に粉碎した闘いであったと思います。駅前でのビラまきは、福大にこれから入ってくる新入生の親子や福大周りの除染作業をしている労働者にも受け取られました。新入生の親子は、興味深くビラを読んでおり、除染労働者はどういう反応をするかと恐る恐るビラを渡してみると「一人一人の力は弱いかもしれないけど、こういうのは大事だね。頑張ってくれ」と応援してくれました。その後、樋口さんと二人で福大周辺のアパートにビラを500枚ポスティングし、福大周辺の全ての人に古郡さん奪還の報告と3・11行動への呼びかけをすることができました。

3・11行動は、古郡さん逮捕・過激派キャンペーンに対し、樋口君と実行委員会が弾圧と真っ向から対決し、団結を打ち固めて勝利した地平の中でかちとられました。

辺野古基地建設の反対運動の現場で、活動家の逮捕などが起こる中、沖大自治会も団結をうち固め、4月新歓決戦にうって出ます! 学生自治会が、今年の5月沖縄闘争の爆発の牽引車になれるよう闘っていきます。

◆東北学生・M

今回初めて3・11福島行動に参加しましたが、成功を無事収めることが出来、本当によかったと感じております。

私が素直に感じたことは、労働者階級と学生が連帯し闘うというのは非常に重要な事だということです。被曝労働拒否を掲げる動労水戸さんをはじめとする労働者や学生がこれほど連帯し闘うのに初参加の私でしたが、感動いたしました。

話の時系列がずれましたが、2・3弾圧の時、私は激しい怒りを覚えました。なぜ反原発のビラを配っていただけなのに公安警察やら何やら来て捕まらなくてはいけなかったのか。反原発に対し国家権力は労働者と学生の連帯を恐れてこのような事をしたのだ、私はそう考えます。

権力は私たちに不当逮捕、出頭命令など、脅しをかけてきて、なんとか安倍政権の原発推進を押し進めようとしています。しかし、私達は負けません! 諦めては決していけません! なんとしてでも私達の手で安倍政権を潰

し、労働者階級の国を作り脱原発の道を歩もうではありませんか！ 学校から、職場から、脱原発のさらなる一步を踏み出しましょう。

◆広島大学・D

安倍政権の原発政策・戦争政策と対決し労働者・学生が先頭に立って4年目の3・11が闘われました。とりわけ今年は動労水戸の被曝労働拒否のストライキによって福島で安倍の原発政策・復興政策で抑えられ、諦めさせられていた避難民の思いが解放され始めました。

特に街頭宣伝などをして感じたことは、福島でいくら健康被害を強調しようとそれは単に不安を煽るだけのものとなってしまい、怒りを解き放つものにはならないと感じていましたが、3・8の医療シンポジウムで最終的に会場で確認されたことは健康被害をなくすにはまずは避難は重要ではありますが、それができない今は「社会を変えること」「安倍政権の復興政策と対決して闘い抜くこと」が確認され、それが今求められているのだと思いました。

家族がばらばらにされ、住む場所が奪われ、仮設住宅で暮らさざるを得ない。そんな状態が4年間も続けば、ふるさとに戻りもう一度もとの生活を取り戻したくなるのは当然です。しかし最も許せないことは、そのような思いを利用し原発再稼動のための復興政策を進めているのが今の政治です。このようなペテン的な復興政策を暴き、闘いぬいたからこそ仮設住宅の人たちや、原発作業員との結合が始まったのだと思います。労働者・学生の闘いで安倍を打倒しよう！

◆東北学生・E

私は秋田県に住む大学生です。今回、3・11集会には初めて参加しました。被災者の方は非常に大変な生活を強いられている。震災から四年がたつにも関わらず、真剣に復興に取り組まない政府の対応、風化していく現実に危機感を抱きました。被災者の方が早くもとの生活が送れるよう強く政府に訴えなければいけないと今回の集会

を通して強く感じました。

◆広島大学・F

3・11福島行動に、団結を作ってきた仲間と共に参加しました。今回の行動は、以前と比べて医療シンポジウムなど内容が豊富でした。ピラマキも行い、福島の人びととつながり、個人的に前回は上回る活動規模であったと思いました。医療シンポジウムではふくしま共同診療所の布施医師のお話を聞くことができました。布施医師は福島で甲状腺エコー検査と健康相談を行っている方ですが、福島において医療拠点の建設が困難な中で頑張っておられると知り、それに関連して福島の医療体制が不備であるということを確認しました。福島の人びとは、本当に医療を求めているのだろうかよく分かりませんでした。なぜならば福島の人びとは震災に関してもあまり声を上げられないと思ったからです。私から見ると福島の人びとは助けを求めているように見えませんでした。そんな中で安倍政権は原発再稼動を始め、福島の復興政策を進めようとしています。しかし、福島現地の方の意見の一部には復興政策は反対しなければならないというものもあります。その意見のずれは福島を考えるにあたって私には混乱を招くものだと思います。そういったことが今回の福島行動で感じたことです。



【当面する行動方針】

○武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判・第9回公判＝判決

3月18日(水) 13時半～ 東京地裁429号法廷にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

○“市東さんの農地死守！” 3・29三里塚全国総決起集会

3月29日(日) 正午～ 成田市栗山公園(旧市営グラウンド)にて

○武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判・第10回＝判決

6月29日(月) 13時半～ 東京地裁419号法廷にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

